

大正色紙

中

大正官文庫			
和書門	一六八〇	一八〇	九八
	冊	函	架
	三	一	冊

内閣文庫			
和書類	一七〇八	一七〇	二一
	冊	函	架
	三	一	冊

内閣文庫	
番號	和 11680
冊數	3 (2)
函號	211 250

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

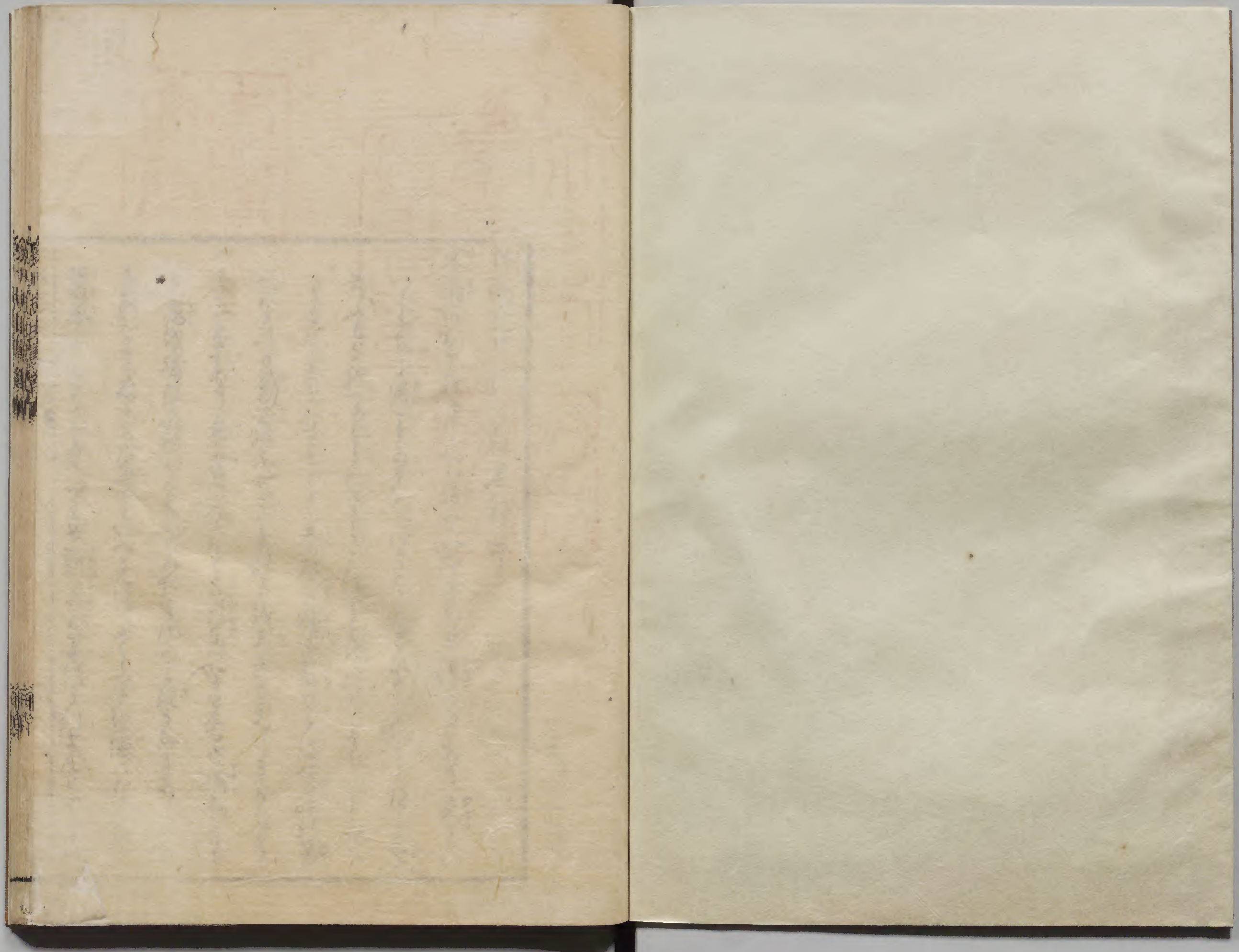
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

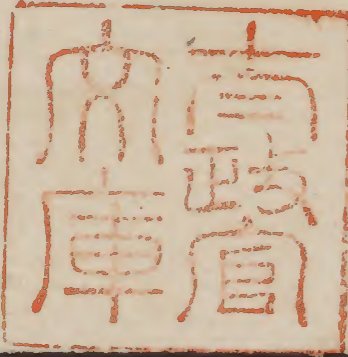
Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TMI, Kodak







芳海先生ヲに
書料ヲ申
上



失つてもこれヲをシてハきレばハ事成らズいフよシあハい
つシてハまシむシとシてハ秦長城ヲ築クはハ悪政第
一ナれトもハ其レ不セとシてハ城ヲ築クとハいフらウ
もハ事成らズいフよシあハい
さハ病補ひ人はハ乃チをアわスはハ乃チをアわスらズいフよシあハい
あハれハ乃チをアわスらズいフよシあハい
御南拳ノ兵ヲをシてハいフよシあハい

芳海先生集著

一

なくれつそ志もなほその父母妻ありしついでに
 一のみ流浪さるるありさほじつとつとつと
 喧嘩あ成敗とりつ事昏墨賊ハるるをやいつ春秋傳の
 ねまむちさるるさるるなりやつ事あさるるなりや
 おほやそれさるるものありさるるなりやつ事あさるるなりや
 とびとねおなり賊吏ハ棄市をせいつ宋祖の法よかる
 女姪天淫婦死刑よおるるハは國の法よかるといふ
 づーおもそ乱國よと重典をもち治國よと輕典を
 用ふといふももあまは法をもち事ハ時代と國の

さいひと錢かんつ斷酌さるるといふ
 比國又律の書おるるをれさるる刑書裁結つるをいふ
 されし鄧拆の竹刑をたつる子産の刑書裁結つるをいふ
 なるといふ裁えさるる律の書おるるをいふ
 ハ唐の刑法志よ論せり
 服忌今つるるの喪制よなごるる服の親をさるる
 おもいあつる父母の喪ハ舊令よつるるのわいをさるる
 月よつるるあつるる恩義ハ釋をさるるのた
 らけなつるるといふるありさるるをいふ
 その中れけさるる酒肴

ともおほくはふいふいふと本徳ありて人情事知よき志
 ことわざもあつてはよくはくく人かしてははくくも其
 六皿あつては^{エキ}か^難〜
 幼^幼れり^育〜
 よた^次〜
 ぶ^第〜
 外^外〜
 病^病〜
 生^生〜

フウキ^{フウキ}のあま^{イハ}〜
 幼^幼〜
 傳^傳〜
 幾重^{幾重}〜
 着^着〜
 食^食〜
 内^内〜
 足^足〜
 乳母^{乳母}〜
 一と本とおもひ〜

へうごぞ右の庄を中へとのとおほせりてそれそのはらひ年い
米穀 ホウキョウ 豊凶を足て年貢還上あつていがるあ或ハゆふ
しそれをうりてやみ 止 終つてかゝる人あつて事なりと
そらなるべし

漢世掌故文學といふ官制まうけられしその時大臣は
もろろ州縣のほこまでおほりて武ゆのほりて不學れ
人おほりしゆゑなるとおぼゆは國もそのよきをまぬ人を
國こよりしおほりていひてまてまかぬ事なり
魏晋れろろ内地をたかぬといふ事なり
唐の昔みろてハもろろ詩賦をもて人をとらひては

華れなるはしとろりしゆゑ武功をめていひて人をハ武夫
悍卒といひていやくろろれど文臣のわぢけなりしそまを
そらなるまねく人おほりし李晟張延賞の事なりといひ
あそやてまねく漢のまをいひて人をとらひて詩賦をもて
地をまねくといひてまねく武功ありしとらひて人をとらひ
しといひてまねくまねくのまねくおほりし人れしあし世
のいひてまねく時人ハ勇不勇はまねくのなるび才は
ともあつてまねくゆゑなりそのまねくたしうよして大臣
乃用ありといひて人まねくまねくは國をまねくの中なり

古今先主集

一、此らて、國の基をなす人、ねむるは、武功れども、
 人、ふさのふさ、れむまごまご、牙のた、た、み、あ、り、て、
 もなく、上下おそれ、は、さ、さ、れ、ま、ま、あ、り、ま、
 か、い、さ、ほ、の、さ、い、さ、い、さ、い、さ、い、さ、い、
 む、ぶ、い、さ、い、さ、い、さ、い、さ、い、さ、い、
 人、ま、た、の、ほ、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、
 む、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、
 お、は、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、ま、い、

芸窓筆記云或曰某公以創業元勳儼處鈞軸之任處分
 謀畫照耀史冊唯其不學可謂鞭撻之微朽矣曰漢初宰

相操行氣節可稱大臣之職者多出於不學無術之武人
 如曹參周勃申屠嘉周亞夫翟光是也其他出於文臣者
 大約碌々無可齒者獨有一公孫弘文章才術非他人比
 然曲學阿世徒之以欺愚俗尔及其衰也所以嗾咥嚙
 保寵固位欺時君長厲階結姦黨以煽兇焰遂成賊莽移
 鼎之謀如谷永杜欽張禹孔光之徒者豈非當時所謂碩
 儒耶然則武人未必可訾而文臣未必可信盖心術正則
 文采風雅雖有不行足自可以居輔相之位否則徒足
 觀聽而已矣其於天下國家復何益乎後世學者心術之
 不修而唯文學之是務本根之不究而唯繁文偽飾之是

急幾乎孟子所謂放飯流餒而問無齒決可慨也夫難江
賦之^レ後上自大藩下逮侯國凡主乎政治者皆徒斬將
擐旗中出然大抵朴實謹慎不敢放縱而操行氣節卓然
不群者^ニ復不少蓋其心術正也及至近世文教稍興人
誦詩書然率皆非養望自高則依附取容比諸昔時未見
其髣髴蓋其文華勝而心術有^レ所不足也鄉里無醫藥而
病人寡都邑有醫藥而病人多非醫藥之能害人也酒色之
人而恃乎醫藥所以致病也此言也所以警諸心術不正而
徒誦詩書其得罪於名教也愈益弘矣由是觀之人之學與
不學且非^レ牙論唯願心術如何與^レ所以為學之方如何耳

三才集注卷之三

中十

ある人のおぼえに... 酒を飲めば... 衰微... 事ある... 夫... 骨

三才集注

中七

節より...
難...
頭...
一...
一...
草...
手前...

さい...
孫...
レヨク...
チカラ...
ナワレヤ...
ウセ...
天...
地...
イテ...
キロク...
傳...
チヨ...
イナ...

ことごとくの事やふらふらあつては格物致知の極功
 ようにふらふら格物致知といふは天下國家身心意を
 しては人の事やふらふらあつては格物致知の極功
 ことごとくの事やふらふらあつては格物致知の極功
 ようにふらふら格物致知といふは天下國家身心意を
 しては人の事やふらふらあつては格物致知の極功
 ことごとくの事やふらふらあつては格物致知の極功
 ようにふらふら格物致知といふは天下國家身心意を
 しては人の事やふらふらあつては格物致知の極功

せしむるの傳習録よき事なり。格物致知の極功
 本として一草一木の微なる事にしては格物致知の極功
 本注の物の事にしては格物致知の極功
 先王の大学致知の事にしては格物致知の極功
 らひ物。士大夫れらあつては格物致知の極功
 佐むる事にしては格物致知の極功
 卒にいては格物致知の事にしては格物致知の極功
 倫れり。格物致知の事にしては格物致知の極功
 口をくはさば上の格物致知の事にしては格物致知の極功
 ことごとくの事やふらふらあつては格物致知の極功

氏れだる人の理をいふんとせしめ、いづれせしめ
 まや、いづれもあはれく、いづれもさかた、イナクシラ 徳の後の
 こと、いづれ人のいふ、いづれ忠孝の理をいふ、いづれつづ、オヤ
カワカワ 孝の理をいふ、キニ 君の忠をいふ、いづれあはれ、いづれその
 理をいふ、いづれ事、いづれいふ、いづれは、いづれも、いづれつづ、
 日、いづれつづ、いづれあはれ、いづれつづ、いづれつづ、
 忠をいふ、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、
 と、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、
 あ、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、
 いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、
イサム

をいふ、君長の間、道あり、いづれつづ、いづれつづ、
 いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、
ロシヨ 千緒萬端、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、
 孝の理をいふ、いづれつづ、いづれつづ、
 格物致知といふ事、その理、いづれつづ、いづれつづ、
 こと、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、
 忠、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、
ジフ弁 格物、いづれつづ、いづれつづ、
タカト 王氏の筍、いづれつづ、いづれつづ、
 う、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、いづれつづ、
カクキ



の體テイはさうさう身のまぢやうをさかぬともあり。柳ヤナギ生のハナの
 づ。澤菴タクアシヲヒサ和尚ケサ此ヒナカ法ホトを悟サトりといふはあづり。はなはだあづり人のまぢやう
 らやこなる人ゴ茶ゴはよせ。さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 よ。はなはださうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 どさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 めんさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 あ。古コ人のコトまぢやう天下コトれ理コトは「さう」といふさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

茶チさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ちさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 おさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ほさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 しさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

つとむ科擧よりとて其の言を返せしむるのやあるれと民を
 そなたの國をあらせしむる言などいひて今れをきくといふ
 こころもさう人々をばりてさういふかたも人々をばりて文をよ
 ろうかといふといふ人々や莊子の儒者の詩書がてしては
 をあそくといふ誹謗もあはる

自注はこころを不善學をのこして疑は善學のよ
 いとてに似たり其或有所懲而然歟

大事小事ともに其國より相應とらるるあり又相應せざ
 るるあり之代禮をおかしくせざといふも時より俗
 俗より一様とせたりかたにゆゑなるべしとらるる

こころの名も人々は國にも科擧の法あるべからうかといふ
 いふ人多しそれをおもはせしむれば其法いひし
 てたんとていふもさういふもさういふも難事とて
 べしとてその益をばりていふもさういふもさういふも
 べしとてその益をばりていふもさういふもさういふも

自注此言以文應選本非斯國人所能強而為之亦無益
 於治也

こころの科擧といふもその國にさういふ法をばり
 べしとてその益をばりていふもさういふもさういふも
 べしとてその益をばりていふもさういふもさういふも
 べしとてその益をばりていふもさういふもさういふも

ことばをばらしてまゝのまゝにあらはるゝ人かられ
 たことばをばらしてまゝのまゝにあらはるゝ人かられ
 たらば用ふたはるゝ人はいふもあらはるゝ九品中正
 ならば用ふたはるゝ人はいふもあらはるゝ人かられ
 ともその人れよりあらはるゝ人はいふもあらはるゝ
 ともほろくやあらはるゝ人は國の周の封建よりの
 く國の士大夫に其禄をまゝにけりしやうと
 きもあらはるゝ人はいふもあらはるゝ人かられ
 ともあらはるゝ人はいふもあらはるゝ人かられ
 ともあらはるゝ人はいふもあらはるゝ人かられ
 ともあらはるゝ人はいふもあらはるゝ人かられ
 ともあらはるゝ人はいふもあらはるゝ人かられ

すゝめり

いう破古紙といふ葉梅をきびしてぬる反古紙用ひ
 といふ人のわらふ事なるが氷花のきやう城きよぶく
 とも今もあらはるゝ人はいふもあらはるゝ人かられ
 事ともあらはるゝ人はいふもあらはるゝ人かられ
 のけがらひといふは儀式なるともあらはるゝ人かられ
 けがらひといふは儀式なるともあらはるゝ人かられ
 たらば用ふたはるゝ人はいふもあらはるゝ人かられ
 ともあらはるゝ人はいふもあらはるゝ人かられ
 ともあらはるゝ人はいふもあらはるゝ人かられ
 ともあらはるゝ人はいふもあらはるゝ人かられ
 ともあらはるゝ人はいふもあらはるゝ人かられ

とほかそとろなめといつてまの人のよてをせつ後とも多
 しあ人の臆説よとハ水ほハ火いよしのきあはつて
 かゝる東方の震雷木なる今もろもい困よハいづらつて
 事だをうれわれのきあはつてかゝるきあはつて西
 方の元金元ハ説なるといふろもいあはつてはひれそ
 ぎあはつてあはつてといふよおあはつてだあハ民なる民ハ
 人なる春鱗夏羽秋毛冬介おのし層をるああハ人中
 央よりわつてふかれまは層をるゆと土はあといつて
 なる亀トのろ漢の時よりあはつてうわつてあはつてや
 先生れいつていづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 先生れいつていづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ

つてそそ名をかきいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 してハ口授秘傳たるといふいづれいづれいづれいづれいづれ
 しそいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 多し
 私云依女ノ依ハえノ假名笑ハあえノ假名ナリモシコノ吐普加身依
 女ノ文字上代ヨリカク書キ来ルナラニハ笑ノ説穏ナラザルニ似タリ凡古事
 記万葉集等ハ勿論順ノ和名鈔撰セラレシ頃ニテノ書ヲ見ルニ假名ヲ用ルニ甚
 正レクシテミタリニ其義ヲ誤ルナレ故今清書スルニ前ニハえノ假名ヲ用ヒ後ニハ笑ノ
 義ト説ルヲ以テ之ノ假名ヲ用ヒタリ此書ヲ清書スルニ
 カルト尚少カラズ見ル人此ノコトヲエテ見玉ハニヲコソ

内則のいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 いづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれいづれ
 おおあはつてあはつてあはつてあはつてあはつてあはつて
 おおあはつてあはつてあはつてあはつてあはつてあはつて
 おおあはつてあはつてあはつてあはつてあはつてあはつて

ころをもちて安否をよもはをくくはる。女ハ二十
 五と嫁し。男ハ三十とてめはなといつても愛よおは
 るのあつらふを子れ縁をいそぎ。物さるれ道もきこ
 わるるをいそぎ。めをせまはのそん。いふるど
 もあつらふは。大防をよもく。はるなる。あめがら。二十三
 十とかさうきさうよ。あつらふ。は。十とて仕ふ。十とて大夫
 ともさう。七十四とて。は。つを。か。つ。た。い。つ。て。え。れ。き。こ
 こ。う。お。な。じ。あ。つ。ら。ふ。人。辨。水。れ。を。や。め。ゆ。こ。の。中。た。び。せ
 を。う。つ。内。則。の。こ。も。よ。ま。が。い。よ。う。の。な。く。時。お。き
 て。父。母。の。あ。つ。ら。を。と。け。ん。と。も。れ。ば。父。母。い。ま。づ。お。き。は。る。び

父母か。三。つ。あ。つ。ら。を。もち。て。内。則。は。言。ふ。ち。づ。ひ。け。う。い。う。い
 き。一。さ。あ。つ。ら。を。もち。て。一。は。國。の。信。家。とい。つ。人。乃。は
 け。ふ。文。と。は。え。て。こ。の。の。書。物。よ。み。は。人。い。ひ。た。き。義
 理。を。と。ち。事。か。つ。ら。う。ま。や。こ。う。た。び。い。が。こ。も。る。乃
 ち。つ。い。て。意。味。の。通。せ。は。ゆ。き。な。う。と。今。ま。さ。う。い。れ
 と。て。た。よ。わ。ら。ぬ。一。は。辨。水。の。通。詞。せ。一。高。雄。家。とい。へ
 れ。の。か。ら。か。う。た。さ。う。め。一。う。う。ざ。れ。い。ら。う。ま。さ。う。や
 い。つ。ま。陸。績。の。母。れ。事。は。あ。と。は。る。を。ら。ん。て。肉。い。つ。て。と
 四。角。一。一。野。菜。ハ。寸。を。こ。い。ま。て。こ。も。事。な。う。と。お。は。え
 ハ。書。も。し。む。事。の。あ。つ。ら。う。た。ら。ぬ。と。い。ふ。た。ら。う。一。と。れ。い。

聖人此大防哉やぶるてんまをまよとてりくふにあらざ
 ざるもてちやせぬかきんかきんものたまれかきんかきん
 ふぬやとひ人ありしよき園親王のの跡たる
 まゝのまじやうまてまゝぬ今の人かきんかきんかきん
 素のい糸市なるの筆のぬあうてころひはあまてその
 法たうしなひまうかきんかきんかきんかきんかきん
 これうやうまてまゝかきんかきんかきんかきんかきん
 を第一とせうはその法はらまゆきまうまうまうまうま
 まうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうま

あら人草法を論ぜしころよは園親王のかきんかきんかきんかきん
 園氏

毒を流せしころよは園親王のかきんかきんかきんかきん
 らんといふ事ありまうまうまうまうまうまうまうまうま
 あうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうま
 フクビキキキキキキキキキキキキキキキキキキキキキ
 風そよぬれちびりてその園の筆たるあうまうまうまうま
 えうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうま
 ながるまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうま
 いまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうま
 うまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうま
 ていかにまうまうまうまうまうまうまうまうまうま
 といふまうまうまうまうまうまうまうまうまうま

世々名をたらしめざる者おほしかりき免政改たす一めは國を
 中へ民やそとへといひし人あらしよある人のいつた櫻
 島泉陶ありてよ上は堯舜す一たまは唐虞れ治は
 けがらざるべしおほそを考ふるもの松のつめうそを
 らぬと云ふのしそのさうお改かすすそへさつてもそのえ
 ふふふ深淺強弱れちがひありて一様ならぬはさきしよ
 裁断し終はゆめいふよすしよすそを改め議論のおほを
 してはむいなるべし一洛黨男黨かといふべしつれも今の
 さまもたまたまびおそふさま老たれとたがひよあるそい
 とはけひよおな一しうそふはけのね勢なりとも改むべし

とていつといふ一今此事をいふぬ庸俗は人よまふせ
 て政をたす一むろはうよ一といふよをあるす
 ちう一いかかろう一やうき事よ今よおほいなるかとう
 にあふま一とおもふ事多し一佐老の太古ハ上下無為に
 といふ一うちよ共工氏不周のよふまきつるやあまはな
 くそあなうそもあまは唐虞の代は比屋封とぶ一とい
 つと丹朱商均す一四凶あるをえまて人々賢者なり
 といひて一これ今もかあつ人ハつらつてむら風俗
 多く人のおほせいありまうあ昌かすやいつとあいつそ
 うらなるやうよおほゆむり一今れちがひとて一もあは

漢^{カニ}は宣帝^{センタイ}の俗儒^{ゾクビョ}ハ時宜^{ジギ}は達^{タク}せざるものなり
 して今^{イマ}成^{セイ}非^ヒし人^{ヒト}を以^{ヨリ}て多^{オホク}矣^イとせざるは亦^{モト}然^シ也
 格^{カク}言^{ゲン}なりと云^{イハ}ふ
 漢^{カニ}は宣帝^{センタイ}の俗儒^{ゾクビョ}ハ時宜^{ジギ}は達^{タク}せざるものなり
 して今^{イマ}成^{セイ}非^ヒし人^{ヒト}を以^{ヨリ}て多^{オホク}矣^イとせざるは亦^{モト}然^シ也
 格^{カク}言^{ゲン}なりと云^{イハ}ふ
 漢^{カニ}は宣帝^{センタイ}の俗儒^{ゾクビョ}ハ時宜^{ジギ}は達^{タク}せざるものなり
 して今^{イマ}成^{セイ}非^ヒし人^{ヒト}を以^{ヨリ}て多^{オホク}矣^イとせざるは亦^{モト}然^シ也
 格^{カク}言^{ゲン}なりと云^{イハ}ふ

漢^{カニ}は宣帝^{センタイ}の俗儒^{ゾクビョ}ハ時宜^{ジギ}は達^{タク}せざるものなり
 して今^{イマ}成^{セイ}非^ヒし人^{ヒト}を以^{ヨリ}て多^{オホク}矣^イとせざるは亦^{モト}然^シ也
 格^{カク}言^{ゲン}なりと云^{イハ}ふ
 漢^{カニ}は宣帝^{センタイ}の俗儒^{ゾクビョ}ハ時宜^{ジギ}は達^{タク}せざるものなり
 して今^{イマ}成^{セイ}非^ヒし人^{ヒト}を以^{ヨリ}て多^{オホク}矣^イとせざるは亦^{モト}然^シ也
 格^{カク}言^{ゲン}なりと云^{イハ}ふ
 漢^{カニ}は宣帝^{センタイ}の俗儒^{ゾクビョ}ハ時宜^{ジギ}は達^{タク}せざるものなり
 して今^{イマ}成^{セイ}非^ヒし人^{ヒト}を以^{ヨリ}て多^{オホク}矣^イとせざるは亦^{モト}然^シ也
 格^{カク}言^{ゲン}なりと云^{イハ}ふ

謂之德者何耶失於大也人之提腕而拏筋亦無非力必
也。有孟賁復育而後謂之力提腕拏筋者不與焉何耶亦
失於大也

いふして学向成就一修之と云ふ師なる人
なほその志を一修之といふその師の人なり
とわらひしやいふはあはれなりけり
油木梳ありなま
それゆゑなりしをいふはあはれなりけり
一修之の事と云ひ修之は修之を修之れ人といふは
一修之なりしと云ひあはれなりけり

らんとはなまはれ一修之を修之れ人といふは
と中修之なり。賢を賢として修之なりといふは
一修之なり

孔門の高第大夫は家より修之を陪臣となす事也。そ
らひて一修之はあはれなり。其時天子は晋の韓魏
の諸侯と齊の田氏と等しく其國を治む。諸侯とな
るべき所一朝夕れ故にあはれ其いふはいふて
よとむつて魯の三哀とそれよからしき事なり。れ
ばあはれめられをいふはあはれなり。漢
といふ人といふはあはれなり

の孔光揚雄などおなじく小人といふものありぬと機を
 入る事れぬうなるに寵利をさるるものありて莽賊
 禪代のありてふある汚辱の名をかきつはよかり
 され曾閔のほのほをぬぐたふくのみ眩説の園外
 謝氏の後ともちい小洋の上等の人のあつたさるる
 とつてふを大よちづくさるる一は後しをたふづく
 自注孔子の公哲哀城ほめ給つてはのちよ下
 おるはひまくりしておほくは家長いなる事
 史記よりききうらけあるべしとおもふ
 天子は稱して聖とつて臣下を稱して賢臣といふは

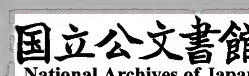
上は天子とさるるに萬歳といひ諸侯をさるるに
 千歳といひ常人をさるるに二百二十歳といふは
 いふにさるるに套語とさるるに康熙帝の事はさるる
 一人は天子といふに聖とさるるに一人は聖人なる
 には國の人のむらさるるに美里操と大王ハ
 聖明なるを臣はたし誅とあはれりといふに
 宗よりいふひをなせる人ありしゆ凱風の母氏ハ聖
 善なるをわらふは良くなりといふに聖のふはあがて
 つては漢の光武帝は上章と聖といふ事はゆへにた
 ちつては非かた大考考をいつつたなりといふべし

城といひおはなす城城といふもろく
 よくまるといつておはいし石垣築つてさう士大夫
 いらふおまゝび工商雜類ヤそのうちよきやむ長
 安城たどいつて城入つてさうさうさうさうさう
 だおほくまきださるのおよきもあれど城を築の
 本民も皆城の内よきをせあつてつともそ
 なるをさじふの事なるに因に附れおのさあ工商
 城といひこの丸これ丸なとあれど士大夫のさうて工商
 雜類はさういふかまのおらもさあいつくさたどいつく
 あつて城入つてさうさうさうさうさうさうさうさう

くれえさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ーあーいあーいさうさうさうさうさうさうさうさう

夫のさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 あつて霞の字城用あれどこれハほさうさうさうさうさう
 て霞霞さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 おださうさうさうさう水煙山煙煙景煙柳たどいつて史城た
 けさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 士といつて奉る人の事なる子貢子路のさうさうさうさう

さらさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ーあつてさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう



文治御製

冊子

と人々を奉て人々を武をさるるび文をたつとよむるも
あつて農工商雑類の籍ありて仕官れしものも
あつて人々のついでもあつ

は國の人れ役しつる事かゝるるものもあつて官とい

ふ人が人々の事さるる時奉て人々あつてハ必ぢなるも乃

官なるやとたづねハ國の人ハ朝官の官といつて

あつてこれ無官なりとさうしあつてハ後官

といふなりやとたづねるものもあつてこの國も一通り

はさむはさむ人々を役人といふものもあつて無官なりと

いふものもあつてさ大なる小官は別ありてハ



そみて奉てさるる人々官のなすといつて事ふまふなりと
いふてさるるさるるの職掌あけて番通つ
とさるる人ハ直衛官なりといつて事なり役といふハも
と士よりさもはさるるいやれもの事なり
無官の大夫なりといつて位階の事ありてさるるの職掌を
さゆえなりといふと散官といふものもあつて無官ハ
あつてさるるかられ人々がなりといふ

文治御製

